

平成21年10月期 第3四半期決算短信

平成21年9月14日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 エイチ・アイ・エス

コード番号 9603 URL <http://www.his.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 平林 朗

問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役

(氏名) 楠原 成基

TEL 03-5908-2070

四半期報告書提出予定日 平成21年9月14日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

1. 平成21年10月期第3四半期の連結業績(平成20年11月1日～平成21年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年10月期第3四半期	232,118	—	3,625	—	2,611	—	1,652	—
20年10月期第3四半期	256,646	2.0	1,881	△23.2	2,358	△25.9	137	△93.1

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年10月期第3四半期	50.95	—
20年10月期第3四半期	4.20	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年10月期第3四半期	113,441	45,188	39.3	1,374.60
20年10月期	103,746	45,210	43.2	1,381.81

(参考) 自己資本 21年10月期第3四半期 44,575百万円 20年10月期 44,810百万円

2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年10月期	—	0.00	—	24.00	24.00
21年10月期	—	0.00	—		
21年10月期(予想)				24.00	24.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

3. 平成21年10月期の連結業績予想(平成20年11月1日～平成21年10月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	332,500	△9.7	7,300	23.7	6,000	△3.3	3,400	36.7	104.85

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 有
新規 一社 (社名 ー) (除外 1社 (社名 株式会社ATB))

(注)詳細は、7ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

(注)詳細は、7ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

(注)詳細は、7ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年10月期第3四半期	34,261,468株	20年10月期	34,261,468株
② 期末自己株式数	21年10月期第3四半期	1,833,332株	20年10月期	1,832,237株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	21年10月期第3四半期	32,428,642株	20年10月期第3四半期	32,855,573株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料の発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、6ページをご参照ください。

2. 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

定性的情報・財務諸表等

1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間（平成20年11月から平成21年7月まで）の国内経済は、昨秋の米国金融危機に端を発した世界経済の急速な景気後退により、輸出産業を中心に企業収益は大幅に減少し、その影響は雇用情勢の悪化や個人消費の落ち込みへと広がり、大変厳しい状況で推移いたしました。

旅行業界を取り巻く環境は、今年春先以降の燃油特別付加運賃の大幅な下落さらには廃止、円高基調の継続といった海外旅行にとっての追い風がありましたものの、低迷する景況感に加えて、4月下旬から感染者数が増大した新型インフルエンザの影響が、結果として海外旅行需要を大きく減退させる要因となりました。日本政府観光局（JNTO）による平成20年11月から平成21年7月にかけての日本人出国者数（推計値）は、前年同期比約8.6%減（約104万1千人減）の約1,101万8千人と依然として減少傾向が続いております。

このような状況のもと、当社グループは主力セグメントであります旅行事業におきまして、少しでも多くのお客様に海外旅行を楽しんでいただけるよう、当期間も積極的な広告・営業展開を行いました。

販売面では、多くの航空会社が4月以降出発の燃油特別付加運賃の大幅な減額を発表したことを受け、5月には初夏のご旅行のお得感を明確に打ち出した「H.I.S. スーパーバザール」を実施しました。また、今年が『Ciao（チャオ）』（当社の主力パッケージツアーブランド）の発売開始20周年であり、『impresso（インプレッソ）』（当社の添乗員同行パッケージツアーブランド）の発売開始10周年でもありますので、7月にはそれを記念した「H.I.S.『Ciao20周年』&『impresso10周年』記念セール夏FINAL」を行いました。この他にも創意を凝らした各種販売促進を図りました。

商品面では、『いい旅研究室』（お客様の“いい旅”を実現するために平成20年4月に設置）の活動プロジェクトとして、『いい旅トルコ 10日間』（添乗員同行パッケージツアー）を、『impresso（インプレッソ）』と共同で企画し、発表いたしました。この『いい旅トルコ 10日間』には、これまでに『impresso（インプレッソ）』の各種トルコツアーにご参加いただいたお客様からのアンケートを基にして、『いい旅研究室』が「お客様の声」をツアーにできるだけ取り入れ、ご要望の多い「ゆとり」とご好評の「トルコの名物体験」にこだわったツアー商品とし、他の商品との違いを際立たせたものになっています。

海外のネットワークについては、海外店舗網の拡充に加え、現地在住の方を対象とした旅行手配業務についても、既取扱店の営業強化はもちろんのこと、新規の取扱店（インドのデリー等）を設けるなど、一層のグローバル化を展開しております。

この他にも、インターネットを利用した旅行サービスの拡充に引き続き力を注ぎ、インターネットとモバイルを連携させた新サービス『旅ナビ』をスタートいたしました。このサービスにより、当社の専用パソコンサイトからダウンロードした旅行先の観光スポットや地図などの情報を携帯電話で持ち出し、現地で手軽に利用することができます。

以上のような各種施策を展開いたしました結果、当社グループは、日本人出国者数に占めるシェアを前年第3四半期連結累計期間の14.6%から17.8%（推計値）へと大きく引き上げることができました。しかしながら、商品単価の低い「安・近・短」にレジャー需要が集中したことに加え、4月下旬から感染者数が増大した新型インフルエンザや燃油特別付加運賃の大幅な減額などが影響した結果、当第3四半期連結累計期間（9ヶ月）における旅行事業は、売上高2,307億91百万円（前年同期比90.6%）となり、残念ながら減収になりました。

ホテルを運営しているオーストラリアでは、世界的な景気後退に伴い、ゴールドコースト及びブリスベン両ホテルともに客室稼働率の低下が見られ、当初の計画目標には及びませんでした。加えて、業績を日本円で評価する際の為替相場が円高傾向にあることも影響し、売上高は13億32百万円（前年同期比68.5%）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は上述のとおりであり、当社グループ全体の当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高2,321億18百万円(前年同期比90.4%)、営業利益36億25百万円(同192.7%)となりましたが、為替予約にかかわる営業外費用が発生した結果、経常利益26億11百万円(同110.7%)、四半期純利益16億52百万円(前年同期は、特別損失に投資有価証券評価損を19億65百万円計上)となりました。

なお、上記文中の損益項目数値に付しております「前年同期比」につきましては、参考情報となります。

「参考」前年同四半期との比較(第3四半期連結累計期間)

下表の「前年同四半期」(金額・百分比)及び「前年同期比」(金額・増減率)は参考情報であります。

	当第3四半期 (自平成20年11月1日 至平成21年7月31日)		前年同四半期 (自平成19年11月1日 至平成20年7月31日)		前年同期比	
	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	232,118	100.0	256,646	100.0	△24,527	△9.6
売上原価	192,374	82.9	220,141	85.8	△27,767	△12.6
売上総利益	39,744	17.1	36,504	14.2	3,239	8.9
販売費及び一般管理費	36,118	15.5	34,623	13.5	1,495	4.3
営業利益	3,625	1.6	1,881	0.7	1,744	92.7
営業外収益	938	0.4	855	0.3	82	9.7
営業外費用 ※1	1,952	0.9	378	0.1	1,573	415.4
経常利益	2,611	1.1	2,358	0.9	253	10.7
特別利益	7	0.0	64	0.0	△57	△89.0
特別損失 ※2	27	0.0	2,106	0.8	△2,078	△98.7
税金等調整前四半期純利益	2,590	1.1	316	0.1	2,274	719.6
法人税等	778	0.3	126	0.1	651	513.9
少数株主利益	160	0.1	51	0.0	108	211.3
四半期純利益	1,652	0.7	137	0.0	1,514	—

※1 当第3四半期の営業外費用には、為替差損1,921百万円(前年同四半期は308百万円)が含まれております。

※2 前年同四半期の特別損失には、投資有価証券評価損1,965百万円(当第3四半期は計上無し)が含まれております。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期末における総資産は、前連結会計年度末に比べ96億94百万円増加し、1,134億41百万円となりました。これは主に、現金及び預金の増加(前期末比70億35百万円増)、旅行前払金の増加(同33億61百万円増)によるものです。

また、当第3四半期末における負債は、前連結会計年度末に比べ97億16百万円増加し、682億52百万円となりました。これは主に、旅行前受金の増加(前期末比123億52百万円増)、為替予約の減少(同31億79百万円減)によるものです。

当第3四半期末における純資産は、前連結会計年度末に比べ21百万円減少し、451億88百万円となりました。これは主に、為替換算調整勘定による純資産の減少(前期末比37億51百万円減)、繰延ヘッジ損失の減少(同21億68百万円減)、当第3四半期連結累計期間の四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加(同9億94百万円増)によるものです。

(キャッシュ・フローの状況)

当第3四半期末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末に比べ173億70百万円増の484億50百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

[営業活動によるキャッシュ・フロー]

営業活動により資金は137億39百万円の増加となりました。

主に、旅行前受金の受取増加(132億24百万円)、税金等調整前四半期純利益(25億90百万円)の計上により資金が増加し、一方で、旅行前払金の支払増加(36億6百万円)により資金が減少したことによります。

[投資活動によるキャッシュ・フロー]

投資活動により資金は62億32百万円の増加となりました。

主に、定期預金の払戻による収入(114億61百万円)、差入保証金の回収による収入(67億1百万円)により資金が増加し、一方で、差入保証金の差入による支出(84億94百万円)、定期預金の預入による支出(16億70百万円)、有形及び無形固定資産の取得による支出(14億3百万円)により資金が減少したことによります。

[財務活動によるキャッシュ・フロー]

財務活動により資金は8億10百万円の減少となりました。

主に、当社における配当金の支払(7億78百万円)により資金が減少したことによります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間(平成20年11月から平成21年4月まで)におきましては、主力セグメントであります旅行事業における海外旅行の需要を喚起することを目指し、積極的な各種施策を展開しました結果、連結の売上高・営業利益・取扱人数ともに好調に推移いたしました。

しかしながら、当第3四半期連結会計期間以降(平成21年5月から)におきましては、商品単価の低い「安・近・短」の方面への需要の一層の集中、春先以降の燃油特別付加運賃の大幅な減額に加え、4月下旬から大きく社会問題となった新型インフルエンザ流行による旅行需要の減退が起きております。このような中、取扱人数につきましては計画には届かないものの前期実績を上回る見込ではありますが、売上高につきましては前回公表しました計画を下回る水準で推移しております。繁忙期であります夏場の旅行シーズンにおきましては堅調に推移しているものの、この落ち込み分を取り戻すまでには至っておりません。今後もこのような状況が続くと予想されることから、通期の予想連結売上高を365億円引き下げて、3,325億円に下方修正いたします。

費用につきましては、引き続き商品造成の見直しを中心とする原価管理体制の一層の強化に努めており、営業利益は前期実績より改善が見込まれるものの、前回公表した予想営業利益までは達しないものと見込まれます。よって、連結業績予想を営業利益73億円、経常利益60億円、当期純利益34億円にそれぞれ下方修正いたします。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

平成21年6月12日の平成21年10月期第2四半期決算短信で発表いたしました通期の連結業績予想との差異は以下のとおりであります。

(通期)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	369,000	8,750	7,100	4,200	129 52
今回修正予想(B)	332,500	7,300	6,000	3,400	104 85
増減額(B-A)	△36,500	△1,450	△1,100	△800	—
増減率(%)	△9.9	△16.6	△15.5	△19.0	—
前期実績	368,384	5,902	6,204	2,487	75 91

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

株式会社A T Bは当第3四半期連結累計期間において清算手続きに入ったため、連結の範囲から除外しております。

(2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

1. 簡便な会計処理

一般債権の貸倒見積高の算定方法は、当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度決算において算定した貸倒実績率等の合理的な基準を使用して一般債権の貸倒見積高を算定しております。

また、繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法は、繰延税金資産の回収可能性の判断に関して、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

2. 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は法人税等を含めて表示しております。

(3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

5. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年7月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	50,591	43,555
売掛金	6,689	5,652
営業未収入金	6,765	8,468
有価証券	1,045	1,038
繰延税金資産	4,405	5,684
旅行前払金	13,697	10,336
前払費用	834	856
短期貸付金	52	45
関係会社短期貸付金	242	69
未収入金	1,435	1,215
その他	2,029	2,019
貸倒引当金	△34	△29
流動資産合計	87,753	78,911
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	4,443	5,597
工具、器具及び備品(純額)	847	794
土地	1,224	1,742
その他(純額)	104	104
有形固定資産合計	6,619	8,238
無形固定資産		
2,062		1,487
投資その他の資産		
投資有価証券	5,102	4,922
関係会社株式	3,594	3,131
関係会社出資金	14	27
長期貸付金	302	403
関係会社長期貸付金	1,021	1,020
差入保証金	6,161	4,549
繰延税金資産	670	944
その他	325	251
貸倒引当金	△185	△143
投資その他の資産合計	17,005	15,109
固定資産合計	25,687	24,835
資産合計	113,441	103,746

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年7月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年10月31日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	17,004	16,362
短期借入金	9	—
1年内返済予定の長期借入金	—	158
未払金	920	966
未払費用	1,560	1,586
未払法人税等	541	289
未払消費税等	80	362
旅行前受金	37,278	24,926
賞与引当金	1,251	2,114
役員賞与引当金	42	53
為替予約	4,584	7,763
その他	2,823	1,919
流動負債合計	66,097	56,504
固定負債		
長期借入金	144	50
繰延税金負債	2	3
退職給付引当金	1,460	1,425
役員退職慰労引当金	357	418
その他	189	134
固定負債合計	2,154	2,032
負債合計	68,252	58,536
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,882	6,882
資本剰余金	7,782	7,782
利益剰余金	35,940	34,946
自己株式	△2,521	△2,519
株主資本合計	48,084	47,092
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	173	△181
繰延ヘッジ損益	△2,414	△4,582
為替換算調整勘定	△1,268	2,483
評価・換算差額等合計	△3,509	△2,281
少数株主持分	613	399
純資産合計	45,188	45,210
負債純資産合計	113,441	103,746

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成20年11月1日 至平成21年7月31日)
売上高	232,118
売上原価	192,374
売上総利益	39,744
販売費及び一般管理費	36,118
営業利益	3,625
営業外収益	
受取利息	514
持分法による投資利益	314
その他	108
営業外収益合計	938
営業外費用	
為替差損	1,921
その他	30
営業外費用合計	1,952
経常利益	2,611
特別利益	
固定資産売却益	3
投資有価証券売却益	0
過年度損益修正益	2
その他	0
特別利益合計	7
特別損失	
固定資産除却損	21
固定資産売却損	0
その他	6
特別損失合計	27
税金等調整前四半期純利益	2,590
法人税等	778
少数株主利益	160
四半期純利益	1,652

(第3四半期連結会計期間)

(単位:百万円)

	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年5月1日 至平成21年7月31日)
売上高	65,867
売上原価	53,936
売上総利益	11,930
販売費及び一般管理費	12,423
営業損失(△)	△493
営業外収益	
受取利息	107
持分法による投資利益	47
その他	9
営業外収益合計	164
営業外費用	
為替差損	752
その他	3
営業外費用合計	756
経常損失(△)	△1,085
特別利益	
固定資産売却益	1
投資有価証券売却益	0
貸倒引当金戻入額	1
過年度損益修正益	2
その他	0
特別利益合計	5
特別損失	
固定資産除却損	7
その他	2
特別損失合計	10
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,089
法人税等	△433
少数株主利益	42
四半期純損失(△)	△698

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

当第3四半期連結累計期間
(自平成20年11月1日
至平成21年7月31日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	2,590
減価償却費	871
のれん償却額	57
貸倒引当金の増減額(△は減少)	125
賞与引当金の増減額(△は減少)	△860
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△7
退職給付引当金の増減額(△は減少)	105
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△61
受取利息及び受取配当金	△515
持分法による投資損益(△は益)	△314
為替差損益(△は益)	537
支払利息	1
投資有価証券売却損益(△は益)	1
有形固定資産売却損益(△は益)	△2
有形固定資産除却損	21
その他の損益(△は益)	24
売上債権の増減額(△は増加)	206
旅行前払金の増減額(△は増加)	△3,606
その他の資産の増減額(△は増加)	△606
仕入債務の増減額(△は減少)	1,797
未払消費税等の増減額(△は減少)	△251
未払費用の増減額(△は減少)	35
旅行前受金の増減額(△は減少)	13,224
その他の負債の増減額(△は減少)	287
小計	13,662
利息及び配当金の受取額	660
利息の支払額	△1
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△581
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,739

(単位：百万円)

当第3四半期連結累計期間
(自 平成20年11月1日
至 平成21年7月31日)

投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△1,670
定期預金の払戻による収入	11,461
有価証券の取得による支出	△100
有価証券の償還による収入	901
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,403
有形及び無形固定資産の売却による収入	6
投資有価証券の取得による支出	△577
関係会社株式の取得による支出	△417
投資有価証券の売却による収入	5
投資有価証券の償還による収入	11
関係会社株式の売却による収入	42
貸付けによる支出	△93
貸付金の回収による収入	105
営業譲受による支出	△229
差入保証金の差入による支出	△8,494
差入保証金の回収による収入	6,701
その他	△16
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,232
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	3
長期借入金の返済による支出	△11
配当金の支払額	△778
少数株主への配当金の支払額	△12
自己株式の取得による支出	△1
自己株式の処分による収入	0
その他	△10
財務活動によるキャッシュ・フロー	△810
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,788
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	17,373
現金及び現金同等物の期首残高	31,080
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	726
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△729
現金及び現金同等物の四半期末残高	48,450

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

当第3四半期連結会計期間(自平成21年5月1日至平成21年7月31日)

	旅行事業 (百万円)	ホテル事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	65,529	331	6	65,867	—	65,867
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	△0	8	—	8	△8	—
計	65,529	339	6	65,875	△8	65,867
営業利益又は営業損失(△)	371	△18	6	359	△852	△493

当第3四半期連結累計期間(自平成20年11月1日至平成21年7月31日)

	旅行事業 (百万円)	ホテル事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	230,791	1,306	20	232,118	—	232,118
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	0	26	—	26	△26	—
計	230,791	1,332	20	232,144	△26	232,118
営業利益	6,213	30	19	6,263	△2,638	3,625

(注) 1. 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各事業の主な事業内容は以下のとおりです。

旅行事業 旅行業及びその付帯事業

ホテル事業 ホテルの所有及び運営

その他の事業 不動産業

[所在地別セグメント情報]

当第3四半期連結会計期間(自平成21年5月1日至平成21年7月31日)

	日本 (百万円)	アメリカ (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	ヨーロッパ (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	59,901	2,478	2,349	1,138	65,867	—	65,867
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	44	2,691	2,824	659	6,220	△6,220	—
計	59,946	5,170	5,173	1,797	72,087	△6,220	65,867
営業利益又は営業損失(△)	△136	217	239	39	359	△852	△493

当第3四半期連結累計期間(自平成20年11月1日至平成21年7月31日)

	日本 (百万円)	アメリカ (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	ヨーロッパ (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	215,676	5,545	7,146	3,748	232,118	—	232,118
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	118	10,396	9,696	2,049	22,261	△22,261	—
計	215,795	15,942	16,843	5,798	254,379	△22,261	232,118
営業利益	4,175	567	1,400	119	6,263	△2,638	3,625

- (注) 1. 地域は、地理的近接度により区分しております。
 2. 本邦以外の区分に属する地域の主な内訳は次のとおりであります。
 (1) アメリカ……………米国、カナダ、メキシコ、バハマ、グアム、サイパン
 (2) アジア・オセアニア……………香港、韓国、シンガポール、インドネシア、タイ、マレーシア、カンボジア、マカオ、インド、ベトナム、アラブ首長国連邦、オーストラリア、フィジー
 (3) ヨーロッパ……………英国、ドイツ、フランス、イタリア、スペイン

[海外売上高]

当第3四半期連結会計期間(自平成21年5月1日至平成21年7月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成20年11月1日至平成21年7月31日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満のため、記載を省略しております。

- (6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
 該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(1) (要約) 四半期連結損益計算書

前第3四半期連結累計期間(平成19年11月1日～平成20年7月31日)

区分	前第3四半期連結累計期間 (自平成19年11月1日 至平成20年7月31日)	
	金額(百万円)	百分比 (%)
I 売上高	256,646	100.0
II 売上原価	220,141	85.8
売上総利益	36,504	14.2
III 販売費及び一般管理費	34,623	13.5
営業利益	1,881	0.7
IV 営業外収益	855	0.3
V 営業外費用	378	0.1
経常利益	2,358	0.9
VI 特別利益	64	0.0
VII 特別損失	2,106	0.8
税金等調整前四半期純利益	316	0.1
法人税、住民税及び事業税	700	0.3
法人税等調整額	△573	△0.2
少数株主利益	51	0.0
四半期純利益	137	0.0

(2) (要約) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

前第3四半期連結累計期間(平成19年11月1日～平成20年7月31日)

	前年同四半期 (平成20年10月期 第3四半期)
区分	金額(百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	316
減価償却費	875
のれん償却額	29
貸倒引当金の増加額	26
賞与引当金の減少額	△787
役員賞与引当金の増加額	2
退職給付引当金の増加額	104
役員退職慰労引当金の増加額	21
積立付与引当金の増加額	4
受取利息及び受取配当金	△601
持分法による投資利益	△133
為替差損	322
支払利息	5
組合投資損失	4
投資有価証券売却益	△38
投資有価証券売却損	27
投資有価証券評価損	1,965
有形固定資産売却益	△5
有形固定資産売却損	2
有形固定資産除却損	36
その他損失	61
売上債権の減少額	3,455
旅行前払金の増加額	9,479
その他資産の増加額	△469
仕入債務の増加額	1,571
未払消費税等の減少額	△147
未払費用の増加額	8
旅行前受金の増加額	17,695
その他負債の増加額	686
小計	15,560
利息及び配当金の受取額	524
利息の支払額	△5
法人税等の支払額	△2,391
営業活動によるキャッシュ・フロー	13,687

	前年同四半期 (平成20年10月期 第3四半期)
区分	金額(百万円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	
定期預金の預入による支出	△6,354
定期預金の解約による収入	2,197
有価証券の取得による支出	△1,808
有価証券の売却による収入	101
有価証券の償還による収入	2,781
有形・無形固定資産の取得による支出	△1,047
有形・無形固定資産の売却による収入	10
投資有価証券の取得による支出	△1,914
関係会社株式等の取得による支出	△258
少数株主からの株式取得による支出	△2
投資有価証券の売却による収入	1,275
投資有価証券の償還による収入	12
貸付による支出	△362
貸付金の回収による収入	52
保証金の差入による支出	△634
保証金の回収による収入	422
その他投資の増加額	△18
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,547
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入による収入	24
短期借入金の返済による支出	△50
長期借入による収入	50
長期借入金の返済による支出	△12
配当金の支払額	△661
少数株主への配当金の支払額	△16
自己株式の取得による支出	△701
自己株式の処分による収入	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,367
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△826
V 現金及び現金同等物の増加額	5,946
VI 現金及び現金同等物の期首残高	38,995
VII 連結子会社増加による現金及び現金同等物の期首残高	9
VIII 現金及び現金同等物の四半期末残高	44,952

(3) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成19年11月1日至平成20年7月31日)

	旅行事業 (百万円)	ホテル事業 (百万円)	その他の事業 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	254,732	1,894	19	256,646	—	256,646
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	50	—	50	△50	—
計	254,732	1,945	19	256,696	△50	256,646
営業費用	251,049	1,725	0	252,775	1,990	254,765
営業利益	3,682	219	19	3,921	△2,040	1,881

(注) 1. 事業区分の方法及び各事業の主な事業内容に変更はありません。

2. 当四半期における営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、2,040百万円であり、その内容は、親会社の本社の管理部門に係る費用であります。

3. 「最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更」に記載のとおり、当四半期より、在外連結子会社の収益及び費用の換算方法を、従来の当該子会社の決算日の直物為替相場による換算から、期中平均為替相場による換算に変更しております。

この結果、従来の方法と比較して、「旅行事業」は売上高2,066百万円、営業利益89百万円、「ホテル事業」は売上高11百万円、営業利益1百万円それぞれ増加しております。

[所在地別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自平成19年11月1日至平成20年7月31日)

	日本 (百万円)	アメリカ (百万円)	アジア・ オセアニア (百万円)	ヨーロッパ (百万円)	計 (百万円)	消去又は 全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する 売上高	236,359	6,897	8,694	4,694	256,646	—	256,646
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	29	10,725	8,941	2,744	22,440	△22,440	—
計	236,389	17,623	17,635	7,439	279,087	△22,440	256,646
営業費用	234,443	17,099	16,380	7,242	275,165	△20,400	254,765
営業利益	1,945	524	1,255	196	3,921	△2,040	1,881

(注) 1. 所在地区分の方法及び各区分に属する地域に変更はありません。

2. 当四半期における営業費用のうち、消去又は全社の項目に含めた配賦不能営業費用の金額は、2,040百万円であり、その内容は、親会社の本社の管理部門に係る費用であります。

3. 「最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更」に記載のとおり、当四半期より、在外連結子会社の収益及び費用の換算方法を、従来の当該子会社の決算日の直物為替相場による換算から、期中平均為替相場による換算に変更しております。

この結果、従来の方法と比較して、「アメリカ」は売上高960百万円、営業利益28百万円、「アジア・オセアニア」は売上高924百万円、営業利益61百万円、「ヨーロッパ」は売上高202百万円、営業利益1百万円それぞれ増加しております。